

修学旅行記

東京—北陸—京都

抒情的で厳しい国

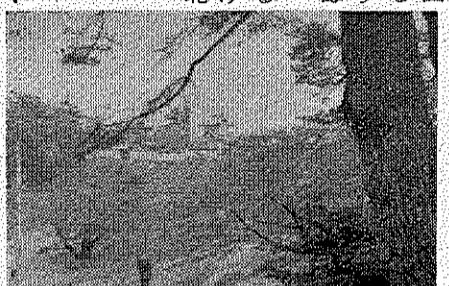
天の橋立

夜行の疲れなどあるが、すでに夜は白々とあけ汽車は日本海に沿って走っていた。岩石が海面に表われ、寒々とした景色だ。「おおおーー行くと朝しらすですよ。ここへ近づくが遅い」と相手の小母さんがお国慢である。

早朝、金沢についた。

兼六園

その昔、前田侯が大金を費して作ったといこの美しい庭園を新米のガイド嬢が案内してくれた、新緑が美しく池の水に移り根が地中に盛り上っている奇怪な松、花びらがものすごく沢山あるとかう木花事が自よく車から出でてくる。余り手入れがゆき届いてるので、茶屋の小母さんに尋ねてみると、案の定、何百人という植木屋さんに入るそうだ。雪がつてこの間迄けなかつたところの春の遅い北陸らしい事であった。



永平寺

天下の奇勝と伝え聞く東尋坊はなかなか壯觀だった。自然が作

り上げた岩の城だ。季節が早い

東尋坊

海上の巖場

が早く、海女姿を見られなかっ

たので、少々残念だったが日本

の一面を見

海の巖場

の一面を見

海上の巖場

